



グループ内の会計システム一元化と ワークフロー自動化で経理業務改革、 それを実現可能にしたのがxoBlos



株式会社ギオン 株式会社ギオン 様

「運ぶちから、未来をつくる」というコーポレートビジョンのもと、総合物流事業を中心に、環境事業や健康事業も手がけるギオングループ。ギオンを含むグループ7社、国内65拠点で利用してきた会計システムの一元化と、ワークフロー自動化による経理業務の効率化を実現するうえで、欠かせない存在となったのがxoBlosだった。

重複する2つの会計システムと 紙ベース/手入力の非効率な業務

1965年創業のギオンは、首都圏を起点に食品物流や工業製品物流、機密文書保管、さらに物流アウトソーシング(3PL)や物流コンサルティングまでを提供する総合物流企業だ。現在では廃棄物処理/リサイクルの環境事業や、スポーツジム運営などの健康事業を手がけるグループ会社も展開し、ギオンを含むグループ7法人、全国65の拠点および関連会社を含めた従業員数はおよそ4500名に上る。

グループ全社の会計管理/経理業務は、ギオン本社の経理部が一手に担っている。元々はグループ各社が経理部門を持っていたが、効率化のためそれを本社に集約したのだと、ギオン 管理本部 経理部 次長の高澤敦氏は説明する。

だが、そうした経緯もあって、ギオングループの経理業務には幾つかの問題が生じていた。

ひとつは、グループ各社で使用する会計管理システムが統一されていなかったことだ。具体的には、メーカーが異なる2種類の会計システムがあり、本社への経理業務集約後もそのまま併用されていた。経理部 経理課 主任の植竹貴宏氏は、そのために無駄な労力を費やしていたと語る。



株式会社ギオン
管理本部 経理部 経理課 主任
植竹 貴宏 氏

「2つの会計システム間で勘定科目などのコード体系が異なっており、グループ全体の収支実績などを出す際に支障がありました。また、取引先マスターも個別に持っているので、新規登録や修正の際には、それぞれに入力しなければなりませんでした」(植竹氏)
経理関係のワークフローが“紙ベース”で運用されている点も問題だった。取引先への請求書作成を含む債権計上や委託先への債



ギオングループは全国に
65拠点を構え、保有車輛
数は約1500台に及ぶ

務計上、従業員の経費精算などを経理部に依頼する際、各拠点の従業員はまず所定のExcelシート(申請書)に入力し、それを印刷して上長の承認印を得る。経理部では、この紙の申請書を見ながら、あらためてデータを手入力していた。

「債権計上や債務計上がそれぞれ毎月400~500件、経費精算が毎月100~200件あり、これらをすべて手入力していました。経理部は6名体制ですが、この作業に膨大な時間と労力が費やされており、月次決算業務には多くの日数がかかっていました」(植竹氏)
加えて、各拠点の予実管理(予算実績管理)も大きな業務負担を強いていた。Excelベースで管理されていたため、経理部では毎月、月次実績データを会計システムからExcelシートに出力し、65拠点にそれぞれメールで配信していた。この業務もすべて手作業で、ヒューマンエラーも発生しやすい状態だった。

システム一元化とワークフロー 自動化の“カギ”となったxoBlos

会計システムのサポート期限切れを契機として、ギオンではこうした業務負担を軽減し、月次決算を短期化するための業務改革の検討を開始した。2015年9月にスタートしたこのプロジェクトには、経理部メンバーのほかSIベンダーのリコージャパンも加わり、まずは業務課題の洗い出しと目標設定が行われた。

「まず、2系統あった会計システムの一元化が大きな目標でした。ただし、グループ全体で13の会計領域があり、最長で過去16年分もの会計データについて、勘定科目コードの統合や取引先マスターの名寄せもしながら、確実にデータ移行する必要があります」(高澤氏)

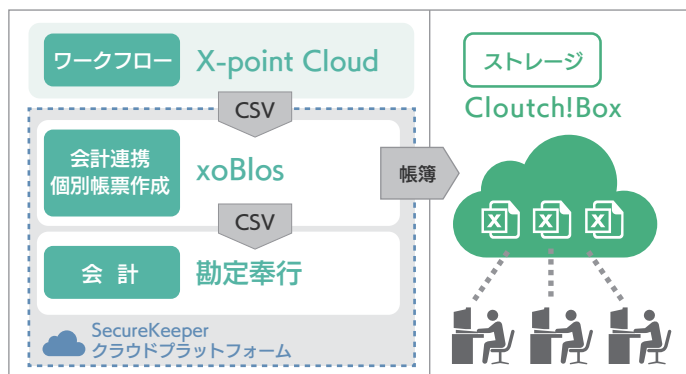
リコージャパンの提案により、グループ会計機能を備え、クラウド

基盤 (Secure Keeper 4Gates) 上で運用ができる、OBCの「勘定奉行 V ERP」の採用が決まった。

一方で、経理部への申請ワークフローでは紙ベースでの運用をやめて、エイトレッドのワークフローシステム [X-point Cloud] を採用することにした。X-pointを使えば、申請書への入力から上長の承認、経理部での申請受領まで、すべてがオンラインで管理され、経理部でデータを手入力する必要がなくなる。これまで使ってきたExcelシート (申請書) のレイアウトをWebページ上に再現できるので、現場の従業員もなじみやすい。ただし、ワークフロー全体を自動化するためには、X-pointと勘定奉行の間をつなぐインターフェースが必要だった。

旧システムからの確実なデータ移行、そしてワークフローシステム / 会計システム間のインターフェースをどう実現するか。ギオンではリコー・ジャパンに提案を求め、そこで紹介されたのがDITの「xoblos」だった。幅広い形式のデータ入出力 / 変換に対応しているxoblosは、こうした役割にうってつけだと言える。

こうしてDITもプロジェクトに加わり、念入りな打ち合わせと調査を繰り返しながら、旧会計システムからのデータ移行、X-pointと勘定奉行の連携に必要なデータ変換の設定 (制御シートの作成) を行っていた。



完成した新システムでは、X-pointのワークフローシステムから抽出されたデータをxoblosが形式変換してファイル出力し、それを勘定奉行が1日に数回、スケジュール実行で取り込む形になっている。

「異なるシステム間をうまくつなぎ、データの橋渡しをする、今回のシステムにおいていちばん大切な役割をxoblosが担っています。DITさんには何度も足を運んでいただき、大変お世話になったと感謝しています」(植竹氏)

なお、予実管理もExcelベースの管理をやめ、データを勘定奉行で一元管理する方法に改めた。ただし、各拠点の担当者が従来どおりExcelで管理できるように、予実データはxoblosがExcelシートに自動変換し、クラウド上のファイルボックスに保存する。各拠点

担当者はこれをダウンロードして確認する仕組みだ。

今後はxoblos単体での業務活用も、新システムが社内への刺激となる

ギオングループでは2017年1月からワークフローシステムの運用を開始し、現在は請求書作成を含む債権計上や委託先への債務計上など、各経理業務への適用を段階的に進めているところだ。ミスやトラブルの許されない業務領域なので、確実、慎重に進めていると、高澤氏は語る。ただし、導入効果はすでに始めているそう

だ。「現場も徐々に慣れてきており、そのメリットを日に日に実感しているところです。経理部での入力工数が減って作業効率が大幅に向上しただけでなく、ヒューマンエラーも少なくなりました」(高澤氏)

新会計システムへの移行が成功したことを受け、植竹氏は次の取り組みとして「xoblos単体での業務活用」を考えている。ギオングループではあらゆる業務場面でExcelが利用されているが、そこに蓄積したデータをうまく加工、活用したいという潜在的ニーズがあるはずだと見ている。

「たとえばxoblosを活用すれば、社内に蓄積された大量のデータを収集して分析するためのBIツール (ビジネスインテリジェンスツール) のような使い方ができるのではないかと考えています。今回の開発はすべてDITさんに委託しましたが、xoblosは汎用性のあるツールですので、講習会などがあればぜひ参加して、自分たちでもプログラミングできるようになりたいですね」(植竹氏)

また高澤氏は、今回の新システムが成功例となって、グループ社内における業務改革の機運も高まってきていると語った。

「今回、われわれが“パイオニア”として新しい業務のやり方を具体化して見せたことで、社内に大きな刺激を与えられたと思います。現場からはさらに『ああしたい、こうしたい』とアイデアが出始めている」(高澤氏)

xoblosが実現した新しい経理システムは、単に経理部の業務を変えただけでなく、ギオングループ全体の業務を改革していくきっかけになるかもしれない。



2015年3月に開設したギオン相模原物流センター

●お問い合わせ先 担当: デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社 xoblos (ソブロス) 事業部

電話: 03-6311-6516 ※受付・平日9:30~17:30

E-mail: xoblos@ditgroup.jp

xoblos Webサイト: www.xoblos.com

ソブロス

検索



Digital Information Technologies Corporation
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社